

輸入検疫有害菌譲受許可申請書の記載方法

下表の普通名称と同じ

輸入検疫有害菌譲受許可申請書

下記のとおり _____ を譲り受けたいので許可願いたく
 ○○○植物防疫(事務)所(_____ 支所又は出張所)を經由して申請
 いたします。

申請者の住所を管
 轄する植物防疫所名
 (本所名)を記入

申請者の住所を管轄する植
 物防疫所名(支所・出張所を含
 む)を記入

住 所 業
 氏 名

職業の欄には、○○大学○○学
 部○○学科(准)教授、(株)○
 ○代表取締役、○○研究所長等
 記入してください。
 詳しくは、「申請者の名義つい
 て」を参照ください。

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

_____ 植物防疫(事務)所長 殿

国別、当該菌別に数量及び梱数を「試験管培養菌○本
 ○梱」のように記載してください。

譲受けを希望する輸
 入検疫有害菌の和名
 (英名)及び学名を記
 載すると共に、当該菌
 の指定微生物株保存
 機関における輸入許
 可指令番号及び菌株
 番号(原番号及び保
 存番号)を必ず記載
 してください。

普通名称及び学名※	
数量及び梱数	
採取地又は産地	
輸送の方法	
譲受けの目的	
分譲者の住所・氏名	
被分譲者の住所・氏名	
譲受予定年月日	
輸送中の包装状態	
管理方法及び場所	
利用期間及び利用後におけ る処理方法	
管理責任者氏名	
その他参考となるべき事項	

当該菌が採取された国名又は地域名を記載してくだ
 さい。

書留小包郵便、携行等を記載してください。なお、携
 行する場合は、携行者の職業(職名)及び氏名を記載
 してください。

申請者と同一名義としてください。(住所には郵便番
 号も記載してください。)

許可書の入手に要する日数(約1カ月)及び当該許可
 書の送付並びに指定微生物株保存機関での発送準備
 及び輸送に要する日数等を考慮のうえ記載してくだ
 さい。

利用期間は、目的とする試験が終了するまでの期間
 で、6年間以内としてください。(長期間にわたる場
 合は、その旨を記載してください。)利用後の処理方
 法は、輸入検疫有害菌及び試験等に使用した器具類
 の消毒方法(高圧殺菌等)又は処分方法(焼却等)を
 記載してください。(次頁参照)

当該菌の保管及び試験を担当する責任者の機関名、
 職名、氏名、電話番号、ファックス番号及び電子メ
 ールアドレス等を記載してください。

試験の目的をできる
 だけ詳細に記載して
 ください。

当該菌を譲り受ける
 指定微生物株保存機
 関の住所、機関名を記
 載してください。

輸送中に輸入検疫有
 害菌を散逸させない
 ための容器の種類及
 び包装の方法を記載
 してください。

(例)試験管に入った
 ○○菌を破損しない
 ように梱包し、郵送で
 送付する。

当該菌の保管場所、試
 験内容及び場所(研
 究室名等)並びに消
 毒方法を具体的、か
 つ、詳細に記載して
 ください。

- (注) 1 ※印の欄には、指定微生物株保存機関における輸入許可指令番号及び菌株
 番号(原番号と保存番号)を必ず記載してください。
 2 本様式は必要な記載のみを示したものであり、申請書の大きさはA4縦
 とし、各欄を広くとり内容を詳細に記載してください。
 3 氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。

研究機関等の過去の研究事例及びその資料、当該菌が特殊なものはその
 特殊性、今までに輸入許可又は譲受許可を得て使用したことのある管理
 場所を使用する場合は、その許可番号、管理責任者が不在時の連絡者及
 び電話番号等参考となるべき事項を記載してください。

<管理方法及び場所の記載例>

管理場所については、〇〇県〇〇市〇〇町〇〇 〇〇研究所〇〇棟〇階〇〇研究室及び〇〇室と記載し、管理方法については、次のように具体的に記載してください。

- ・「〇〇菌の保管は 〇〇室内の冷凍庫で行う。」「〇〇菌の培養は〇〇室内の恒温器で行う。〇〇室で形態比較、薬剤の抗菌力検定、生理的性質等を次の方法により検討を行う。」
- ・「〇〇菌の生植物への接種試験は、外部と遮断できる〇〇室のバイオトロン内でポットを使用し、他の植物と隔離して行う。ポットから流出した濯水は収集装置により収集し、オートクレーブで 120℃ 20 分間以上の殺菌処理を行う。」
- ・「試験中不要となった菌、試験に使用した 器具類はその都度 〇〇室のオートクレーブで 120℃ 20 分間以上の殺菌処理を行う。」